

学園の今を伝える立正大学学園新聞

RISSHO UNIVERSITY NEWS

2 橘花祭と星霜祭が4年ぶりに同時通常開催!
4 法学部の岩切先生にインタビュー

5 フリーアナウンサーとして活躍する立正人を紹介!
10 サッカー部が関東準優勝!全国大会にも出場!

Vol. 156
Autumn 2023

両キャンパスで学園祭を通常開催!



立正大学
「モラリスト×エキスパート」を育む。

品川キャンパス 〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16 / Tel.03-3492-5250
熊谷キャンパス 〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700 / Tel.048-536-6010

Website

学園新聞Web版はこちらから

立正大学マガジン



FEATURE

特集

4年ぶりに品川熊谷そろっての通常開催!

アフターコロナで実施する橘花祭と星霜祭

橘花祭

KIKKASAI

開催日程

品川キャンパス

2023年11月4日(土) 10時~17時
5日(日) 10時~15時



橘花祭SNS

橘花祭実行委員からのコメント

昨年度は『彩虹(さいこう)』というテーマを掲げ、ご来場いただいたみなさんや実行委員とともに橘花祭を彩りました。3年ぶりの全面対面開催を経て得るものも多く、委員としても刺激を受けたものとなりました。

さて、今年度のテーマは『祭瞬(さいしゅん)』です。このテーマは、「人生において最も旬で、煌びやかな時間である青春の喜びを、来場者・実行委員ともに感じることができるような橘花祭にしたい」という想いが込められています。今まで制限されていた日常生活がコロナ禍以前に戻りつつある中、通常開催に向けより一層の賑わいとなるよう委員一同活動を行ってまいりました。

さらに、今年は11月4日と5日の2日間の通常開催ということで企画も盛りだくさんです。目玉となる企画の1つにヒーローショーがあります。これまでは新型コロナウイルス感染症の影響で、開催自体が危うくなったり、実施できなかった企画も多くあった中、今年度はようやくヒーローショーを再び実施できることになりました。小さいお子様にも楽しんでいただけたと思いますので、是非とも足を運んでいただきたいです。

また、ミスコンテストとミスターコンテストについても、今年度は両方開催できる運び

になりました。連動してInstagramなどSNSの更新も行いますのでそちらも注目していただけたら幸いです。

橘花祭を支えてくださるすべての方々へ感謝の気持ちを届けるべく、立正生が一丸となって作り上げる橘花祭をぜひご堪能ください。

最後になりましたが、第58回橘花祭を開催するにあたりご尽力くださいました協賛企業様、地域の方々、参加団体様、教職員の方々へ厚く御礼申し上げます。



受験生のお知らせ

4年間で未来は様変わりする。

価値あり!
その挑戦に



4年間最大 320万円 給付 チャレンジ奨学生

全学部一般選抜(R方式)受験者対象

4年間の修学を支える

学業奨励金

年50万円

4年間給付

- 年間50万円毎年給付されます。
- 給付期間は1年次から4年次までの4年間です。

×4年 200万円

あなたの挑戦を応援する

チャレンジ奨学金

年40万円まで

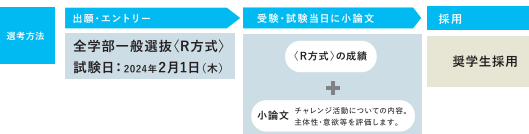
3年次まで給付 4年次まで給付可能

- キャリアアップや学業・研究活動をはじめ、様々なチャレンジに自由に使える奨学金です。
- 学部1年次から3年次まで年間40万円まで使用することができます。未使用分は学部4年次まで繰り越して使用することができます。

×3年 120万円

たとえばこんな挑戦ができる!

- 実社会で人と関わるボランティア
- 研究の視野をより広く、深く!文献読破
- 自転車で日本一周フィールドワーク
- めざすキャリアに向けて資格取得
- 可能性を開く海外留学
- 学外の人もつながる研究会参加・開催
- 見聞を広め、感性を磨く博物館・劇場巡り
- ほかにももっと!



お問い合わせ先 入試センター
〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16
TEL.03-3492-6649 FAX.03-5487-3347
E-mail:exa@ris.ac.jp

詳細は、「チャレンジ奨学生特設サイト」をご覧ください。



RISSHO OPEN CAMPUS

オープンキャンパスサイト



オープンキャンパスサイトにて常設コンテンツ公開中。

- 大学・学部説明動画
- 入試関連動画
- オンライン模擬授業
- Specialコンテンツ

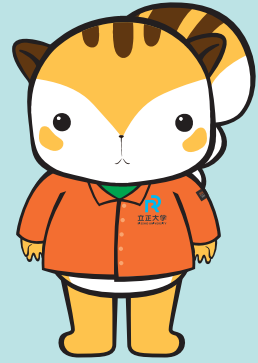
LIVE 配信イベント開催 一般選抜対策 12月17日(日)

入試ガイド 2024

- ▶ 学校推薦型選抜
 - 公募制 11月19日(日)
 - 指定校制・付属校・準付属校対象 11月18日(土)
- ▶ 特別選抜
 - 専門高校(学科)・総合科学技術経路 11月18日(土)
- ▶ 総合型選抜
 - 総合評価型(中期) 12月9日(土)
 - 総合評価型(後期) 3月9日(土)
- ▶ 全学部一般選抜
 - R方式
 - 2月1日(木) 2月3日(土)・4日(日)・5日(月)
 - 2月試験(後期) 2月試験(前期)
 - 2月21日(水) 3月4日(月)
 - 3月試験
- ▶ 大学入学共通テスト利用選抜
 - 前期・後期 ※個別学力審査は課しません。



新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、2020年度以降、様々な制限の中で実施を続けてきた大学祭。今年度は感染症法上の位置づけも変わり、品川キャンパスの橘花祭と熊谷キャンパスの星霜祭が実に4年振りとなる同時通常開催となります。



星霜祭

SEISOUSAI

開催日程

熊谷キャンパス

2023年11月4日(土) 10時～17時



星霜祭SNS

星霜祭実行委員からのコメント

第36回星霜祭テーマは『Connect～つなぐ未来の学生たちへ～』です。新型コロナウイルス感染症の影響で開催ができない年や、学内のみの開催となった年など、困難な状況ながらも星霜祭の伝統をつないできた先輩方に敬意を表し、さらにその伝統を、私たちが未来の学生たちにつなぐという決意を込めました。

また、4年ぶりに一般の方々の来場も可能になるなど、新型コロナウイルスによる制限がなくなったことで、アフターコロナでは初の対外的な星霜祭となります。そこで、1988年に開催された第1回星霜祭のテーマ「Dreamin'～夢をわすれかけてる少年たちへ～」をオマージュしたテーマとしました。

以前の星霜祭や前身の熊谷祭は、アーティストによるライブやタレントによる講演がメインイベントでした。そこで、今回の星霜祭でもその伝統をつなぎ、久保田雅人氏(本学文学部史学科卒)による講演・工作ショーを実施します。

さらには地域のキッチンカーの出店、特殊車両の展示など様々な企画を実施予定です。また、課外活動団体や有志団体による展示企画や体験企画、パフォーマンス企画等も行われます。各団体、星霜祭に向けて着々と準備を進めています。

以前の星霜祭は卒業生の方が多く来場し、同級生で集まったり、課外活動団体の縦のつなが

りを作る場になっていたと伺っています。卒業生のみなさんには、ぜひ星霜祭にご来場いただき、今の星霜祭、立正大学熊谷キャンパスの様子を見ていただきたいです。

星霜祭の成功には我々の力だけでなく、みなさんのご来場が不可欠です。前回の星霜祭は学内のみの開催ということもあり学生および教職員に限られましたが、今回は制限なくどなたでもご来場いただけます。学生はもちろんのこと、卒業生やご家族、ご友人のみなさんなどたくさんのご来場をお待ちしています。

私たちと一緒に星霜祭を盛り上げましょう!



今年の星霜祭実行委員は4人! 人手の少なさは団結力とアイデアでカバーします!

さあ、星霜祭に
レッツゴー!



学園の今を伝える立正大学学園新聞

RISSHO UNIVERSITY NEWS

広告募集中!

立正大学学園の学園新聞に広告を掲載しませんか?

発行部数
10万部

広告サイズ	掲載料金
4色/横252mm×縦95mm	220,000円
4色/横126mm×縦95mm	110,000円

立正大学学園新聞は年3回発行している学園情報誌です。学内のトピックスや同窓生の活躍などを掲載しています。卒業生、在校生と保護者、関連学校へ郵送でお届けし、キャンパス内でも配布しています。

〈お問い合わせ・お申込みはこちら〉

立正大学広報課 新聞編集係

<https://www.ris.ac.jp/magazine/ad.php>



お申し込みの際は、URL、もしくは二次元バーコードから、掲載までの流れと、広告掲載におけるガイドラインをご確認の上、お申し込みください。

メールのタイトルを「立正大学学園新聞 広告掲載申込み」としてご連絡ください。



いわ きり だい ち

岩切 大地 教授

所 属：法学部

研究分野：憲法学、
イギリス憲法比較研究

Profile

上智大学法学部卒業後、慶應義塾大学大学院の博士課程を単位取得退学。2009年に本学の法学部に着任し、憲法学を軸に研究を行っている。

趣味／

バブクローリング(バブをはしごすること)。ビールが好きで大学近隣のバブも開拓中です。

好きな食べ物／

ポテサラ。基本的に芋系が好き。いもけんぴが大好きですが、すぐに1袋食べてしまうので距離を置いています(笑)。

勉強場所／

雰田気のよいカフェ。

学生と関わることで 得られる新しい考え方や議論が 研究意欲を掻き立てる

Q1 岩切先生が憲法学を研究したいと志したきっかけは？

憲法学を研究しようと志したのは大学3年生の時でした。それまでは国際機関で働き、1つの国のためというより全世界のために仕事をしたいと一応思っていました。しかし、3年生の時に受けた憲法学の授業で転機がありました。憲法は条文で書かれていますが、その背景には歴史や考え方の違いがあり、国ごとの正義の定義が変わってくることに気が付きました。憲法学をどの視点から考察するか、様々な関わり方や考え方があることに魅力を感じ研究の道に進むことにしました。

現在は違憲審査制に注目して、憲法それ自体を軸に研究をしています。違憲審査制とは個人の人権を守り、国家・社会のあり方について憲法の規定に違反していないか審査する制度です。憲法のない国、イギリスと比較しながら「そもそも憲法とは何だろう」「捉え方をもって他にあっていないか」と問題意識を持って研究を行っています。

Q2 憲法学の魅力は？

私が研究を続けられるのは、単純に楽しいと思えるからです。様々な文献を読んだりいろいろな人と議論をしたりする中で新たな発想を得られることが、研究を続けることのできる原動力になっています(進捗はなかなか微々たるものではあり、反省の日々ではありますが…)。また、学生が授業やゼミなどで行う質問や発言も、大いに気づきのきっかけになり、このことも非常に楽しんでいます。

最近では学生がチャットGPTと著作権に関して調べていて「こういう風に関心を持つ学生がいるんだ」と学生から刺激を受けることがありました。現時点ではAIが著作物を解析データとして読み込む時、日本ではタグでデータを使用することができます。そのデータを解析してAIが生成した画像や文章などには著作権が生まれるのか。その着眼点は面白いなと思いましたね。

Q3 岩切先生が教員として大切にしていることは？

法学部生なら法学、他学部生ならそれぞれ専門分野を学んでほしいという思いはもちろんありますが、同じくらいに「読み書き」ができるようになってほしいですね。文献を根拠や結論を分析し客観的に読む、そして1つの文献



にとらわれず他の文献と比較する。そこから自分の考えを言葉で文章化する。これは非常に基本的なことですが、慣れていないとできないですし、社会に出た時にとても大切なことだと思います。

そのためには大学生のうちにクラブ活動やアルバイト含め、様々な人と関わる経験を積んでほしいです。一生涯の仲間との出会いや様々な価値観に触れることができます。その経験は他人の考え方を知るきっかけになり、分析する力=読み書きの基礎力が自然と身に付きます。ある意味、社会で生活することが憲法学の学びにつながっているんです。



みんなのゼミ自慢

シェイクスピアを通して イギリスの文化と社会を考える

今回ご協力いただいた先生

いざわ たかし
伊澤 高志 ゼミ

(文学部文学科英語英米文学専攻コース)



いいた まお
記事: **飯田 真央** (文学部文学科英語英米文学専攻コース4年)
私立常総学院高等学校出身



2023年度伊澤ゼミ3,4年生

伊澤高志ゼミは、イギリス文化・文学を扱うゼミです。毎年1期はイギリスを代表する作家ウィリアム・シェイクスピアの演劇を中心に取り上げています。2期には、学生それぞれが自分の関心のあるテーマについてリサーチとプレゼンテーションを実施します。

1期のゼミでは、シェイクスピア作品の上演の映像を観ながら、物語構造やセリフの分析、演出や演技についての考察、時代背景の確認などをします。今年度は悲劇『マクベス』を取り上げました。同じ上演を観ていても学生によって着目するポイントが違い、他の学生の意見を聞くことで様々な角度から作品をとらえることができます。また、同じ原作戯

曲を上演しても異なったキャスティングや演出によって舞台の世界観や受ける印象がまったく変わったり、映画化された場合には映像ならではの表現が加わったりするので、演劇というジャンルの他にはないおもしろさを味わうことができます。

また、シェイクスピアの演劇を通して、シェイクスピアの時代と現代のイギリス、そして日本の社会にも共通する大きな問題についても考えています。例え

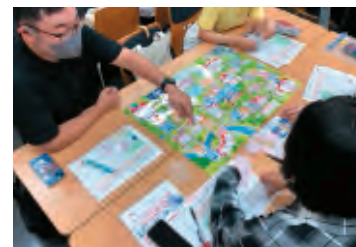
ば、人種・民族、宗教、戦争、権力、ジェンダー・セクシュアリティ、結婚などの問題は、シェイクスピア作品でも重要なテーマです。そういった問題が現代の上演でどのように観客に対して示されているかを考えると、古典作品が現代社会とこんなにもかかわるのかと驚くことが多いです。

2期は学生の個人発表が中心です。ゼミは3,4年生の合同で行っているため、4年生は卒論の中間発表、3年生は卒論に向けての準備報告になります。3年生のうちから卒論について考えることとなりますが、実際に卒論に取り組んでいる4年生の発表を聞けるのはとても参考になります。

伊澤ゼミの卒論では、シェイクスピアに限らず幅広くイギリス(ときにはアメリカや日本も含む)文化や社会についての

テーマが取り上げられています。具体的な題材も、演劇やミュージカル、映画、テレビドラマ、音楽、アニメや漫画など多様で、なかには「こんなテーマが卒論になるの?」とびっくりするようなものもありますが、学生の関心を最大限に尊重してくれる伊澤ゼミならではのゼミだと思います。文学や文化の研究は単なる好き嫌いや趣味の話ではなく、どんなテーマや作品であってもアカデミックな観点と方法で論じることができるのがとてもおもしろいです。

伊澤先生はゼミの時間以外でも学生の話をよく聞いてくださるので、学業のことだけでなく就活などについても相談をさせてもらっています。先生は学生たちとの交流も好きで、コロナ禍の前はゼミ合宿やゼミ飲み会をよく開き、シェイクスピア作品などを観劇するイベントも行っていたそうです。また、卒業生に就活や仕事についての話を聞く機会もあります。卒業まであまり時間が残っていませんが、私も伊澤ゼミでの思い出をたくさん作りたと思います。



金融業界で働く卒業生とゲームを通して交流

活躍する校友 /

立正人

RISSHO BITO

フリーアナウンサー

おおつか
大塚 ひとみさん

2015年 心理学部臨床心理学科卒業



ロングバージョンは
web版をご覧ください。



好きなアウトドアを楽しく発信! 立正卒のフリーアナウンサーが語る



(アナウンサーは有名大学出身で、優れたコミュニケーション能力、容姿、そしてコネがないと成れない職業)

読者のみなさんも、このようなイメージを持っている方は多いのではないのでしょうか?実際にキー局と呼ばれる都心の主要放送局アナウンサーの倍率は1000倍以上、地方放送局で100倍~1000倍程度とも推計されており、非常に就職難易度の高い業種であることが分かります。

この厳しい倍率を見事に突破し、NHK宇都宮放送局に就職。現在はフリーアナウンサーとして活躍する立正人、大塚ひとみさんに当時のエピソードや現在の活躍について語ってもらいます。

一立正大学に進学した理由を教えてください

高校生の頃から心理学に興味があり、心理学部が有名な立正大学への進学を考えるようになりました。

臨床心理学科に入学しましたが、対人・社会心理学科の授業も受けることができ、在学中の4年間で幅広い心理学を学ぶことができました。

一そこからアナウンサーを目指した経緯を教えてください

最初は臨床心理士になりたいと思っていましたが、入学して間もない時期に、趣味である釣りがきっかけで考えが変わった気がします。

高校までは「エサが気持ち悪い」「日焼けが嫌だ」などの理由で釣りを一緒に楽しむ女子友達がいなかったため、大学では釣りへの誘い方、魅力の伝え方を工夫してみたいです。

紙芝居風に絵や言葉で楽しさを伝えたり、実際に釣った魚を食べてもらったりしたところ、うれしいことに「釣りいいかも!」とハマってくれる友人が現れました。

伝えることで「架け橋」になれた喜びから、アナウンサーを目指し始めました。

一アナウンサーになるための在学中の準備

北海道から沖縄まで全ての放送局を受けていたため、全国を周りながら学校に通うという日々でした。

試験では成績表の提出を求められることもあり、授業やテストは一切手を抜けない状態…。

正直とても大変でしたが、友人や先生方のサポートがあり両立することができました。

大学のみなさんの温かさに感謝の気持ちでいっぱいです。

一そこから経験を積んで、株式会社ウェザーニューズへの転職などを経てフリーアナウンサーになった理由は?

釣りははじめとしたアウトドアの魅力が伝えられるようなアナウンサーになりたいと思ったからです。

放送局で報道や情報など基礎を積みさせていただき、今、自分が最も伝えたいことに挑戦しています。

大学での卒論研究の成果も今の仕事に生きています。「声だけで伝えた情報の受け取り方は未知数」という感性心理学の研究は、ラジオの仕事をする際、リスナーにより心配りをするきっかけになりました。

アナウンサーという仕事は、取材相手、聞き手など、常に誰かの「心」と隣り合わせ。

立正大学で学んだことを糧に、これからも伝え続けます。



学部あれこれ

立正大学各学部から届いたレポートです！

経済学部

「経済フィールドワーク」で経済の現場を調査

経済学部経済学コースで実施している「経済フィールドワーク」は、座学と現地調査を組み合わせた形の演習型講義です。経済フィールドワークの主な目的は、複雑な社会における「経済」の仕組みを科学的に分析するために、座学で習う経済理論では説明できない事象に対して、自らが「経済の現場」を調査し、その事象を体感するとともに理解を深めることにあります。こうしたフィールドワークの体験を通して、地域経済への問題意識が芽生え、現状分析や課題解決に向けた考え方の基本を身に付けることができます。また、これらのグループ活動を通して、コミュニケーション力の向上をはかるとともに、企画・実施・報告といったプロジェクト遂行の基礎を体験します。

2022年度の調査対象地は、北海道釧路市、群馬県

草津町、群馬県みなかみ町、東京都品川区（戸越銀座商店街）、東京都武蔵野市（吉祥寺）、山梨県富士河口湖町・山中湖村、静岡県熱海市、福井県勝山市、香川県高松市の全9地域でした。学生は自分の興味や時間割を勘案し、これらの中から対象地を選び履修しました。いずれの対象地においても授業目的に沿った、学生の主体的な活動を中心に、座学のみでは得難い経験を積むことができました。

写真は草津温泉で知られる群馬県草津町における現地調査の様子です。現地調査では、温泉施設に限らず、街並み形成や大規模公園の視察のほか、郷土風習公開施設等を見学しました。テーマパークとは異なる、長い時間をかけて形成されたことによる魅力を体感するとともに、街づくりの難しさを学ぶことができました。



群馬県草津町での街歩き

経営学部

浦野ゼミがアサヒビール株式会社と産学連携した「スマドリバー渋谷」が、第15回日本マーケティング大賞でグランプリを受賞。

浦野寛子ゼミでは毎年3年生が産学連携活動を行っています。過去にH.I.S.、ニューバランス、三越伊勢丹等とプロジェクトを行ってきました。2022年度は2021年度に引き続き、アサヒビールとプロジェクトを実施しました。

アサヒビールが提唱している概念の中に「スマートドリンク」(＝スマドリ)というものがあります(2020年12月提唱)。これは様々な人々の状況や場面における「飲み方」の選択肢を拡大し、多様性を受容できる社会を実現するために商品やサービスの開発、環境づくりを推進していく活動のことで、

2021年は「スマドリ」を普及していくためのマーケティングプランをテーマに産学連携活動を実施しましたが、2022年は、スマドリ概念の象徴としてつくられた

「スマドリバー渋谷」に焦点を当て、半年に渡り「スマドリバー渋谷」のマーケティング戦略をテーマとするプロジェクトに取り組みました。なお、スマドリバーとは「飲めない自分のままでいい。飲んでも飲めなくても、みんな飲みトモ」をコンセプトに、自分の体質や好みに合ったドリンクを選べるバーのことで、

キックオフミーティング、中間意見交換会、アサヒビール茨城工場見学からマーケティング戦略へのヒントを収集、提案に向けた議論を重ね、最終審査報告会では浅草にあるアサヒビール本社にて、社員の方を審査員としたプレゼンテーションを実施しました。

「スマドリバー渋谷」は、公益社団法人日本マーケティング協会主催「第15回 日本マーケティング大賞」において「飲めない人の視点から新文化創造に挑戦し

た」として、最高賞となるグランプリを受賞しました。浦野ゼミもこうした活動の一翼を担えた点で、産学連携先のアサヒビールより感謝のお言葉をいただき、ともに喜びをかみしめています。



アサヒビール株式会社で最終報告会を終えた浦野ゼミ

地球環境科学部

比企丘陵の天水を利用した谷津沼農業システムが日本農業遺産に選定 －立正大学谷津田イノベーション研究会の6年間の活動－

熊谷キャンパスの位置する比企丘陵では谷津地形が多く、谷津田にあるため池は谷津沼と呼ばれています。この地域は、荒川からの取水が困難であり、沼の水を繰り返し大切に利用して農業を営んでおり、風土を共創して利用しながら共同知として出来上がった谷津沼農業文化が1500年以上前に始まり、現在もなお続けられています。

立正大学は比企丘陵農業遺産推進協議会の幹事会に出席し、日本・世界農業遺産登録申請の取りまとめを行い、申請書作成にかかわってきました。さらに、環境システム学科の後藤ゼミが中心となり、産学官民の谷津田イノベーション研究会を組織して、地元からすれば当たりまえの天水だけを使った農業の価値、それを1000年以上維持してきた文化、およびそれによっても

たらされた生物多様性など、比企丘陵の豊かな風土共創から生まれたヴァナキュラー(地域固有の文化)をGIS(地理情報システム)で見える化し、世界農業遺産への登録を目指し活動しています。こんな中から、谷津沼農業システムの維持管理プロセスはSDGsそのものであることを実感しています。

研究面では、水文・生物分野などの研究室の協力のもと、環境保全型農業版のスマート農業でドローン、IoTによる水位・温度の自動観測、化学分析、土壌微生物の評価を併用した科学的な農業に関する研究を行い、谷津沼農業の成立要因を分析しており、慣行農業から有機農業への転換を行う研修会にデータ提供してデータに基づいた農業を行っています。また、定期的に圃場の土壌微生物多様性・活性値を計測し、優良土

壤についてはSoilマークの対象として認証し、アオパパイアなどの各種野菜や、谷津田米を認証評価しております。この活動は、農林水産省の2050年までに有機農地を現在の農地の25%以上にするという政策を追い風に、農業関係者からの関心を集めているばかりか、環境保全型農業を指向する志願者も現れています。



今年も品川星稜高校SDGs部、農福連携の団体、立正生等40名ほどで田植えをしました。熊谷市小江川の小堤沼に繋がる谷津田にて



全文はこちら



RISSHO JUNIOR&SENIOR HIGH SCHOOL

立正大学附属立正中学校・高等学校

立正中高体育祭 4年ぶりに本格的な開催

6月13日に中学校、6月15日高等学校の体育祭が実施されました。会場は大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場で、東京オリンピックでも使用された素晴らしい施設を利用しました。3600人が収容できる屋根付きのスタンドで、生徒と保護者が一体となって応援することができました。梅雨の時期で心配されましたが、その晴れ間に無事に開催することができました。

中学生はクラス対抗、高校生は3学年全体

を4ブロックにわけての対抗戦で競いました。リレー競走や障害物走などのレースや綱引き、またソーラン節(女子)、エッサッサ(男子)などの集団競技など見どころ満載でした。高校生は昼食時に応援合戦があり、4団体ごとにそれぞれ一糸乱れぬみごとな演技を披露していました。4年ぶりの本格的な体育祭の実施に、生徒も保護者も大きな声援と拍手が飛び交う盛大な体育祭となりました。



女子生徒によるソーラン節

先生の素顔

後藤 里奈先生(英語科)

東京女子大学を卒業して10年間、他校で教職に就き、この4月から縁があって、立正中学校・高等学校に奉職しました。現在は中学1年生の副担任と女子バレーボール部の顧問を務めています。

大学の卒業式直前にあの3.11の震災に遭って、卒業式

も実施できませんでした。出身は盛岡ということもあり、震災後は立正大学の先生や学生の方もたくさん支援に来てくれたことを覚えています。

中学校の時に壺井栄さんの書いた『二十四の瞳』を読んだのがきっかけで教員を志望するようになりました。また中学・高校の時に会った先生方からもたくさんの影響を受けました。中高時代は剣道部に所属し、二段の腕前です。剣道を通して大きな声も出るようになり、体力もつきました。

英語の授業では、歌やゲーム、ビンゴなどを通じて楽しく学べる環境を作りたいと思っています。また、生徒たちには国や文化、性別を越えて、広い視野を持った人に成長してほしいと願っています。



RISSHO UNIVERSITY SHONAN HIGH SCHOOL

立正大学淞南高等学校

NASEF本部最高教育責任者らが来校 eスポーツ部の活動を高く評価

6月21日、日本の教育現場でPBL(Project Based Learning)「問題解決型学習」の研修をするためにNASEF(北米教育eスポーツ連盟)本部最高教育責任者のケビン・ブラウン氏が来日し、全校生徒で歓迎セレモニーを開催しました。

セレモニーでは、マーチングバンド部によるケビン氏の好きなアニメ「ゲッターロボ」の主題歌をサプライズ演奏し、eスポーツ部顧問の畑山先生による学校紹介と活動報告を行いました。その後、ケビン氏とNASEF JAPAN スカラスティックディレクターの坪山氏による

ワークショップを実施。NASEFが独自に開発したアクティビティ「Soul Forge」を約300名の生徒が体験しました。

また、立正大淞南高校eスポーツ部の取り組みについて、NASEF JAPANエバンジェリストで、全国高校eスポーツ連盟の大浦理事からも高く評価されました。

最後は、『大乱闘スマッシュブラザーズ』校内eスポーツ大会エキシビジョンマッチを開催。サッカー部・野球部の応援歌を歌い会場は大盛り上がりでした。

ライフル射撃部の鎌田耀平君 日本代表として国際大会に出場

ライフル射撃部に所属する鎌田君は、4月28日から30日に東京ナショナルトレーニングセンターで開催されたライフル射撃ジュニアワールドカップ・ズール大会選考会に出場し、自己ベストとなる567/600点をマークして4位に入賞しました。同選考会の5位までの選手がジュニア世界選手権大会二次選考会への権利を得る事になり、5月19日に栃木県宇都宮市で開催された、ジュニア世界選手権大会選考会に出場しました。

ジュニア世界選手権大会選考会でも実力を発揮し、558/600点をマーク。見事に2位となり、出場権を獲得し日本代表に選出されました。

その後、7月14日に韓国昌原市(チャンウォン)で開催された国際大会に出場し、個人50位、団体戦23位という成績を残し、本校射撃部創部以来初めての日本代表入り、国際大会出場という快挙を成し遂げました。



NASEF本部最高教育責任者らと集合写真



NASEF本部最高教育責任者らと集合写真



大会の様子

01 しながわファミリーフェスティバル& 公益社団法人東京青年会議所協定締結式

2023年7月9日、目黒にあるE-Parkにて行われた「しながわファミリーフェスティバル」に立正大学ブースを出展しました。また、同日同会場にて公益社団法人 東京青年会議所と立正大学との包括連携協定式が行われました。ブースでは経営学部・近藤ゼミの学生が外来生物への対策として、アメリカザリガニを捕獲して食用にする活動チラシの配布や、子ども向け型抜きゲームを行うなど盛り上がりを見せました。研究推進・地域連携課では、大学紹介やゼミ活動等のチラシ配布も行いました。

また、トークイベントでは、おかもとまり氏とのトークセッションに社会福祉学部・加藤直子特任講師が出演し子育て事情や支援団体などのお話をいただき、瀬戸口幸菜さん(社会福祉学部4年)がファシリテーターを務めました。

協定を結んだ公益社団法人東京青年会議所は「明るい豊かな社会の実現」を理念に掲げており、地域との協働により社会の発展に貢献する活動を通して、様々な課題に積極的に取り組んでいる団体です。当日は、下山田敬介理事長と寺尾学長が協定書に調印を行い、下山田理事長は「東京青年会議所の25～40歳の若手が担っている。立正大学とは今回の提携を形骸化させずいろいろなことに学生と取り組みたい」と話し、寺尾学長は「東京青年会議所は昨年度の区長選討論会の際に本学学生が携わり非常に勉強になった。学生にとっても近い年代であるため、よい刺激となることを期待したい。」とあいさつしました。



協定書に調印した下山田敬介理事長(写真左)と寺尾学長



活動チラシを配布する経営学部・近藤ゼミの学生

02 地元FMクマガヤとの連携 「学生の発信力UP!」 ~第4金曜日は19時から87.6MHzをお楽しみください~

FMクマガヤのラジオ番組での企画や配信を通じて、立正生と地域をつなげる番組「リスチャン2023」が再始動しています。4月の入学式では、FMクマガヤ出張生放送を実施。熊谷キャンパスゲートプラザ前にサテライト放送ブースを設置し9名の学生が参加。「立正大学に入学したきっかけ」や「学生生活のこと」を主に新入生や地域の方々に向けて自身の体験を紹介しました。また、他番組が放送されている時間帯にスタジオと入学式会場を中継で結び、入学式参加者へインタビュー取材を行うリポート放送も経験。3チームにわかれた学生たちが出演交渉から始め、「立正大学を選んだ理由」や「今後の目標」などについて実際にインタビューを行いました。



インタビュー取材の様子

5月からは、ラジオに関心のある学生や入学式でのサテライト放送に関わった3学部5学科の学生有志10名が、約1時間の番組を企画作りから進めています。6月は各学部の紹介からスタートし、番組を通じて有意義な情報交換を行うことができました。今後は学内情報の他、熊谷・行田の企業や団体、イベント等を紹介していきますので、ぜひご聴取ください!熊谷・行田エリア以外の場所やスマホ・PCで聴きたい方は、こちらの二次元バーコードから聴取できます。



FMクマガヤ出張生放送に参加した学生たち



FMクマガヤ公式アプリ

教職教育センター

ホームカミングデー「教職の集い」のご案内

「ホームカミングデー」とは、立正大学卒業生を母校に招き、往時を懐かしみつつ、在学生との懇談などを楽しむ校友会主催のイベントです。昨年、品川キャンパスで開催された「ホームカミングデー」では教職関係者の部屋を設けたところ、多くの方が参加しました。

教職に就かれている方や、すでに教職を退いた方を招き、旧交を温めてもらうとともに、現在教職を目指して学業に励んでいる現役生との交流の機会となりました。教育現場で活躍してきた諸先輩の経験を、若手の現場教員、そして本学で教職課程を履修している学生に共有できる形にしようというのが、「教職の集い」の趣旨です。

今年のホームカミングデーは11月4日(土)に開催します。このひととき、教職の実際や魅力、やりがい、そして苦悩などを語り合ってもらい、立正大学出身の現場教員のネットワークをより強固なものとしていきたいと考えています。

今年の3月に卒業した方は、現場に入ってもう何ヵ月経ったでしょうか。楽しいこともあれば社会人として辛いこともあった時期だったと思います。久しぶりに先輩や仲間たちと会い、気軽に話すことで学校での思い出話を花を咲かせましょう。また、教師として困っていることもあると思いますので、気軽に話すことで少しでも楽になればと思います。

ホームカミングデーは年に一度の開催となります。今後の発展を見据え、新たな企画を盛り込んでいきますので、ぜひご参加ください。(事前申込不要・一部プログラムのみ参加可)



日時:令和5年11月4日(土)

会場:品川キャンパス 9号館3階 932教室・933教室

〈内容〉

第1部 記念講演、講演・トークショー
10:30~12:15

◆記念講演会

演題:教員採用の現在位置~企業が求める資質能力と基本は同じ~
講師:上原 洋祐 さん(昭和54年大学院文学研究科地理学専攻修士課程修了)
元九州大学教育学部教授

◆講演・トークショー

(3年目教員の方によるメッセージ)
・遠藤 広大 さん(令和3年経済学部経済学科卒業)高知市立三里中学校で社会を担当。
(新規採用教員によるトークショー)
・添川 明日香 さん(令和5年文学部史学科卒業)私立横浜高校で社会を担当。
・早川 東祥 さん(令和5年文学部史学科卒業)葛飾区立中川中学校・葛飾区立桜道中学校で社会を担当。
・古庄 花蓮 さん(令和5年文学部史学科卒業)足立区立第十三中学校で社会を担当。
・渡辺 恭平 さん(令和5年文学部文学科卒業)千葉市立葛城中学校で英語を担当。

第2部 実際の教育現場から
13:30~14:45

- ◆現在の教員採用試験対策の紹介
- ◆卒業生の授業実践の様子
授業の様子を取材したものをビデオで紹介いたします。
- ◆教職履修者より
- ◆教職履修学生相談会

第3部 交歓会
15:00~16:00

- ◆交歓会では、ざっくばらんに、卒業生、在学生が交流し、教育現場の状況や採用試験対策など卒業生に聞いてみたいことをどんどん聞いてみてください。また中々交流を持つ機会のない卒業生同士も交流を行える場を目指しています。



2022年度の就職率はコロナ禍前超え。 ニーズに応えインターンシップイベントを学内開催。

2022年度本学卒業生の就職状況

2022年度の本学卒業生(2023年3月卒)の就職率は96.5%となり、前年度比2.6ポイント増と大幅に上昇しました。これはコロナ禍前、売り手市場と言われた2020年3月卒の96.4%を上回るもので、人手不足を背景にポストコロナ社会を見据えて全業種で採用ニーズが回復したことが背景にあると思われます。業種別では情報通信、卸売、小売、医療・福祉、その他サービス業が上位となり、これは近年ほぼ同様の傾向となりました。

就活の早期化、インターンシップのニーズに対応し 「自由応募インターンシップ企業紹介フェア」を開催

近年、就活の早期化が叫ばれていますが、それを裏付けるように学生が就活を始めた時期の調査(※1)では、2019年卒では3年次の1~3月が最も多かったものが、4年後の2023年卒では3年次の6月以前が最も多いというように、急速に早期化が進んでいます。また企業のインターンシップ実施時期も2023年度の予定では3年次の秋冬期が減少する一方、6~9月が増加するといった前倒し傾向が見られます。その結果、約8割の学生がインターンシップに参加しており、現在の就活において、インターンシップはその起点となり、またほぼ欠かせないものとして定着しています。

また最近の動きとして、令和4年の経済産業省・文部科学省・厚生労働省による「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方(通称:三省合意)」(※2)の改正により、インターンシップは4つに分類されました。例えば実施期間が1日の「1dayインターンシップ」

と称していたものは「オープン・カンパニー」と類型され、さらに「インターンシップ」と称するには「就業体験が参加日数の半分以上で、かつ計5日間以上」など、一定の条件を満たすことが求められるようになりました。

いずれにしても、インターンシップは就活の起点となり、学生のニーズは非常に高まっていると言えるでしょう。

キャリアサポートセンターでは、インターンシップへのニーズの高まりを受け、早期に学生と企業との接点を作るべく、対面でのインターンシップやオープン・カンパニーを予定している28社を招いたイベント「自由応募インターンシップ企業紹介フェア」を6月に開催し、3年生を中心に約190名が参加しました。学生からは「普段の説明会の様に堅苦しくなく参加しやすかった」「知らない企業や業界について知見を広げることができた」「ネットではわからない会社の雰囲気や仕事内

●2022年度 本学卒業生(2023年3月卒) 就職率

前年度比2.6ポイント増
96.5%



自由応募インターンシップ企業紹介フェアの様子

容を知ることができた」といった声が寄せられ、これから就活を始める3年生だけでなく低年次生にとっても有意義なイベントとなりました。

キャリアサポートセンターでは、今後も就職活動の動向に対応したキャリア・就職支援を進めていく予定です。学生のみならず是非参加していただきたいと思えます。

※1 就職みらい研究所「就職白書2023」

※2 経済産業省「インターンシップを始めとする学生のキャリア形成支援に係る取組の推進に当たっての基本的考え方」

立正大学図書館所蔵 貴重資料 紹介 第29回

グーテンベルク42行聖書 零葉
(A leaf from the Gutenberg 42 line Bible)
Mainz, 1450-1455
存 1葉

ヨハネス・グーテンベルク(Johannes Gutenberg, 1400頃-1468)はドイツの技術者で、図書の大量生産を可能にした活版印刷技術を発明したことで知られています。本資料は、グーテンベルクが活版印刷技術を用いて印刷した世界初の印刷聖書の1葉です。多くのページが2段組42行で組まれていることから、「42行聖書」と呼ばれています。レイアウトは写本を踏襲しており、ゴシック体の活字を用いて黒字で印刷されています。文頭の装飾文字等は印刷後、朱、藍で1葉毎に手書きされ、印刷本とは違って1つとして同じものは存在しません。

1450年から1455年頃に180部ほどが印刷されたと推測されていますが、現在本の形では世界で48部が確認されているのみです。零葉1葉であっても古書市場に出ることは極めて稀な貴重資料ですが、この度縁あって国内の古書店から入手し、立正大学図書館の蔵書に加えることができました。当館所蔵資料は、ニューヨークの古本商であるガブリエル・ウェルズ(Gabriel Wells, 1861-1946)が入手した端本を1葉ずつ分割し1921年に販売したもので、アメリカの書誌学者エドワード・



グーテンベルク42行聖書 零葉

ニュートン(Alfred Edward Newton, 1864-1940)の解説が付随しています。

本資料のより詳細な解説や大きな図版は、2023年6月刊行の『立正大学図書館 古今善本録〜蔵書が伝える図書館150年の軌跡〜』に掲載しています。立正大学開校150周年を記念して本資料をはじめ、図書館で所蔵する150点の稀覯書を厳選して紹介、さらに立正大学図書館史も収録しました。

10月4日(水)から2024年5月13日(月)には、同書の刊行を記念した展示「立正大学図書館 古今善本150選」を開催します。立正大学品川キャンパス内の3会場(8号館古書資料館、11号館図書館、13号館特別展示室)にて、4期に分けて資料の入れ替えを行い、全150点の資料を紹介します。詳細は図書館ホームページをご覧ください、ぜひお越しください。

Topics

2023年6月、『立正大学図書館 古今善本録
〜蔵書が伝える図書館150年の軌跡〜』を刊行しました。
ISBN:978-4-907075-09-5 定価:16,500円(税込)

※販売総代理店・極東書店
(Tel:03-3265-7531、
E-mail:info@kyokuto-bk.co.jp)

学内・紀伊國屋書店のほか、
Amazonからも購入可能です。



サッカー部

関東大会準優勝で全国の切符を掴む リーグ戦前半も首位ターンと絶好調



アミノバイタルカップ集合写真

「アミノバイタル[®]」カップ2023(第12回関東大学サッカートーナメント大会)が6月から開催されました。関東大学リーグに所属する大学をはじめ、多くの大学が出場するこの大会では、上位6校が9月に行われる総理大臣杯(全日本大学サッカートーナメント大会)に出場できる、言わば関東予選を兼ねている大会となります。10日間で5試合を行う厳しい日程をチーム一丸となり粘り強く戦いましたが、決勝戦では昨年度に関東大会優勝と全国大会優勝を果たしている国士館大学に1対2と惜敗。初優勝こそ逃しましたが、4年ぶりに2度目となる準優勝を勝ち取り、全国大会への切符を手にすることができました。

総理大臣杯では2回戦から出場し、順天堂大学と戦いました。前回大会ではベスト8止まりであったので、それ以上、更に日本一を目指し臨みました。試合は常に相手に先行される苦しい展開が続きましたが、終了間際に同点に追いつくなど粘りを見せましたが、PK戦の末、日本一の夢は次回へ持ち越しとなりました。

また、個人に目を向けると、主将の杉本光希(地球環境科学部4年)がジュビロ磐田(J2)に内定、1年生の田原瑠衣(データサイエンス学部1年)がU-19全日本大学選抜に選出され、イタリアで開催された「アンジェロ・ドッセーナ国際ユース大会」に出場し優勝するなど、選手の日々の努力が実を結び始めています。

既に開催されている第97回関東大学サッカーリーグ戦2部では8勝3分2敗(1試合未消化、9月5日現在)で2位。11月中旬まで先の長い戦いがまだまだ続きます。一戦必勝で頑張りま

すので、引き続きの応援をよろしくお願いいたします。

「アミノバイタル[®]」カップ2023試合結果・関東代表校

1回戦	シード		
2回戦	シード		
3回戦	立正大学	2-1	産業能率大学
4回戦	立正大学	4-0	平成国際大学
5回戦	立正大学	2-2(PK5-4)	中央大学
準決勝	立正大学	1-0	順天堂大学
決勝	立正大学	1-2	国士館大学

総理大臣杯関東代表校

優勝	国士館大学
準優勝	立正大学
3位	早稲田大学
4位	順天堂大学
5位	中央大学
6位	法政大学

総理大臣杯とは?

毎年夏に実施される大学サッカーの全国大会。各地の大会で結果を出した24の大学が出場する。

総理大臣杯試合結果

1回戦	シード		
2回戦	立正大学	3-3(PK3-5)	順天堂大学

硬式野球部

ベストナイン3人選出も春季2部リーグ戦4位 飯山選手は3年生ながら大学野球日本代表候補にも選出



熊谷大生(三塁手:データサイエンス学部2年)

5月中旬まで行われていた東都大学野球春季リーグ戦では、目標にしていた「優勝・1部昇格」には届かず4位という結果で終了。「戦国東都」と呼ばれる日本屈指のリーグで勝ち上がっていくのはとても大変なことであると痛感しました。

しかし、苦しい戦いの中でもチームとしても個人としても、リーグ戦が始まる前とは見違えるほどに成長できたと思います。課題として挙げいていた攻撃面ではコーチ陣の熱い指導のもと、徹底的に振り込みを行い、実践形式の練習を多く行ったことで、各

打者のレベルアップを図ることができました。また、走塁の意識改革を行い、ヒット以外の効率のよい進塁方法を増やせるような努力を行ってきました。その結果、チームとしての得点力アップを実現し、幅広い攻撃パターンを生み出すことができました。このような努力もあり、選手の打率の底上げや大量得点での勝利など、他チームに打ち勝てる攻撃力、厚みのある打線になりました。

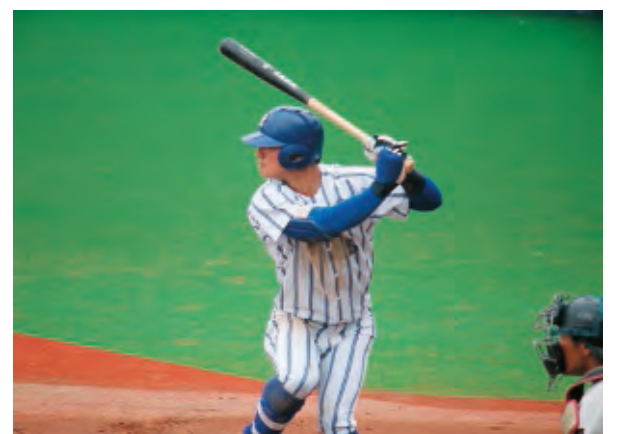
一方、守備面で崩れてしまう試合が多々あり、課題は残っています。堅実な守備、更なる攻撃力アップを目指し、秋季リーグ戦までにレベルアップを図ります。

また、本学から前田聖矢(二塁手:法学部4年)、熊谷大生(三塁手:データサイエンス学部2年)、飯山志夢(外野手:データサイエンス学部3年)の3名がベストナインに選出されました。飯山志夢選手は、侍ジャパン大学日本代表候補にも選出され、6月の選考合宿に参加しました。合宿中の紅白戦では本塁打を打つなど猛アピールをしましたが、惜しくも日本代表には選出されませんでした。飯山選手は「レベルの高い場所で勝負ができたこと、また多くの課題を見つけられたので秋のリーグ戦に向けて

練習し来年こそは日本代表に選ばれたい。貴重な経験で得たものをチームに還元し、秋のリーグ戦につなげていきたい。」と日本代表には選出されなかったものの手ごたえを感じていました。

リーグ戦終了後、7月上旬からはたくさんのOP戦を行い、全国の強豪と試合を重ねるとともに、日々の練習を積み重ね、8月下旬には新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となっていた仏教系大会が4年ぶりに愛知学院大学のグラウンドで開催されました。

9月から行われるリーグ戦に向けて力を付けていき、目標達成に向け精進していきます。



飯山志夢(外野手:データサイエンス学部3年)

ラグビー情報

ラグビー部男子

春季交流大会グループBで4位と健闘 9月からの関東大学リーグにも弾み



オールスターゲームに初選出されたベイタタ・キニ(社会福祉学部4年)

昨シーズン関東大学リーグ戦1部5位という創部史上最高の成績を残したことにより、今シーズンの関東大学春季交流大会はグループを1つ昇格させ、グループCからグループBでの参加となりました。慶応義塾大学や筑波大学など、大学選手権常連校との公式戦は、本学ラグビー部にとって初めての経験となり、第2節の慶応義塾大学戦では試合終了直前のラストプレーまでリードしてながらも逆転トライを奪われて敗戦となりました。

しかし、この試合を通して「大学選手権上位校とも対等に戦える」という自信を得た本学の選手たちは、同じく大学選手権常連校である法政大学戦に勝利するなど、結果的に2勝3敗の4位という結果で春季交流大会を終えました。

また、7月2日に開催された関東大学リーグ戦選抜選手と関東大学対抗戦選抜による「第11回関東大学オールスターゲーム2023」において、本学のベイタタ・キニ(社会福祉学部4年)が関東大学リーグ戦の選抜代表に選出されました。

秋の本番に向けて8月の夏合宿で更なる強化を図り、目標の大学選手権出場に向けて、厳しいトレーニングに取り組みますので、秋のリーグ戦本番での応援よろしくお願いたします。



1年生で春の公式戦に出場
(左から平尾晃太、赤木謙心、岩重拓海、橋本優真、いずれもデータサイエンス学部1年)

関東大学春季交流大会グループB 結果

- 順位 1位/筑波大学 2位/日本大学 3位/慶応義塾大学
4位/立正大学 5位/法政大学 6位/立教大学
- 戦績 2勝 法政大学(41対24)、立教大学(47対12)
3敗 日本大学(19対52)、慶応義塾大学(24対27)、
筑波大学(10対33)
- その他 関東大学オールスターゲームリーグ戦選抜チーム1名選出
ベイタタ・キニ(社会福祉学部4年)

試合日程情報

- 関東大学リーグ戦 1部
9月9日(土)～11月25日(土)
- 関東大学ジュニア選手権 カテゴリー3
9月10日(日)～10月22日(日)
- 全国大学選手権(※リーグ戦1部3位以内出場)
2023年12月～

※最新の試合情報や日程は二次元バーコードよりご確認ください。



注目選手

- SO10/CTB12 ベイタタ・キニ(社会福祉学部4年)
- No,8 ウィルソン・ユアン(データサイエンス学部2年)
2022年度ベスト15選出
- FL7 岩重拓海(データサイエンス学部1年)
春季交流大会2試合先発出場
- FL6/No,8 平尾晃太(データサイエンス学部1年)
春季交流大会3試合先発出場

ラグビー部女子

大学女子7人制ラグビー大会で6位 吉村、今釘らは日本代表として活躍



今年度、ラグビー部女子は8人の新入部員を迎え、総勢19名の部員で活動しています。

7月には、日本全国から大学や大学生世代の選手で編成された11チームが集まり、国内の大学女子7人制ラグビーの王者を決める大会「Women's College Sevens 2023第10回大学女子7人制ラグビーフットボール交流大会」が本学熊谷キャンパス

で開催されました。本学にとっては学生だけで出場できる唯一の国内大会であり、この大会に向けて厳しいトレーニングを積み重ねてきました。過去大会では全国優勝をしたこともあり、今大会も優勝を目標にしていました。結果は6位に終わりましたが、悔しさをバネに来年以降に向けて活動を行います。

また、15人制の国内大会が今秋より開催されます。本学学生を中心としたチーム編成をし、全国優勝を目標に挑みます。国内には大学やクラブ等の女子チームが多数あり、熊谷市内のグラウンドでも開催を予定しており、どのチームも男子選手に負けないプレーをしますので、熱い応援をお願いします。

個人では、昨年に開催された15人制ワールドカップに引き続き、本学より吉村乙華(社会福祉学部4年)、今釘小町(社会福祉学部4年)の2名と、卒業生3名が世界へ挑戦するチャンスを掴み、多くの世界大会で日本を代表する選手として活躍しています。来年以降に開催予定の国際大会にも出場できるよう、立正大学から世界への挑戦を続けていきます。



\\ TOPIC //

熊谷市教育委員会、ARUKAS熊谷と協力し、市内の小学校29校、中学校17校を対象に「タグラグビー教室」と称し、タグラグビー授業の講師や指導コーチとして参加します。ラグビー未経験の子どもたちにラグビーの楽しさや魅力を伝え、スポーツの普及に貢献できるように、笑顔あふれる子どもたちとのふれあい、大きな喜びをもたらせるよう活動していきます。

ラグビー部女子はラグビーを通じて地域社会に貢献することを大切にしています。今後も地域との結びつきを強め、様々な活動を通じて地域の発展とともに歩んでいきますので、引き続き応援をよろしくお願いいたします。

＼ 学生生活を充実させよう！／

CIRCLE 2023

立正大学サークル情報

本学には100以上の
様々な課外活動団体が活動しています。
今回は、「ヨット部」を紹介します。

CIRCLE INFO

ヨット部

今年で創部50周年！ 八景島での競技ヨットに迫る

競技ヨットは17世紀からレースが行われている歴史があり、オリンピックでも1900年の第2回大会から実施されています。そんなヨットに取り組んでいる、体育会ヨット部に話を伺いました。

ヨット部は、1973(昭和48)年創部の歴史ある団体で、今年で50周年を迎えました。横浜の八景島で活動しており、部員は現在男女合わせて6名ですが、毎週末には横浜市営の合宿所を共用している駒澤大学ヨット部と合同で練習しており、賑やかに活動しています。

ヨットと聞くと、多くの人は大きく優雅なクルーザーヨットをイメージしますが、大学の競技ヨットは主に470級という全長470cm、帆が3枚で二人乗りのクラスになります。3枚の帆は形や役割が異なり、船を進ませたい方向と風向き、潮の流れに応じて、競技者は最も前に向かって推進力が高くなるように細かくコントロールします。

競技では、海の上に決められたスタートラインから、マークと呼ばれる海に浮くブイを回って、最後にフィニッシュラインを通過するタイムを競います。この時に、ライバル船も風を利用しているため、船同士が風を奪い合います。自然と

自分たちの戦いであると同時に、ライバル船との駆け引きが発生する競技で、そこに面白さがあります。

7月8日には創部50周年記念式典を開催し、過去に本学ヨット部に所属していた卒業生や関係者、他大学のヨット部関係者など、多くの方が出席。50年の歴史の中では全日本選手権に出場した方もいて、今の現役部員も関東本戦、全日本とステップアップできるよう頑張っています。



50周年式典に出席した本学・他校のOGOB



部が保有する470級ヨット



前顧問の佐藤一義先生(右)と前副顧問の古川史典氏(左)



ヨットから身を乗り出す「トラビーズ」

安否確認システム登録のお願い

本学では、自然災害や地震発生時に、在籍する学生の安全確保を目的とし、緊急連絡ならびに安否確認の手段としてセコムトラストシステムズが運営する「セコム安否確認サービス(e-革新)」を導入しています。

お問い合わせ 品川学生生活課 03-3492-6698 / 熊谷学生生活課 048-536-6012

パソコンでの登録やその他詳細については、『ポータルサイト>Myツール>キャビネット>3. 学生生活支援>6. 安否確認システム内の各種資料』を参照してください。

企業コード:01013(半角) パスワード:生年月日の下4ケタ(月日)
ユーザーID:学籍番号(英字は大文字) (例)4月1日 → 0401



本紙へのご感想をお待ちしております!

立正大学学園新聞アンケート

立正大学学園新聞編集委員会では、読者のみなさんの声をもとに、よりよい紙面づくりをしていきたいと考えております。今後の紙面づくりの参考にさせていただきますので、アンケートにご協力ください。



アンケート

学園新聞Web版・公式サイト・SNSはこちらから



学園新聞Web版



立正大学マガジン

検索



公式サイト

立正大学

検索



公式facebook



公式X (旧Twitter)



モリスX (旧Twitter)

セミナーやイベント情報、クラブ活動の様子などをSNSで配信中!ぜひフォローしてチェックしてみてください。